

水戸市議 20年、茨城県議 20年の経験生かして

初の女性市長で

くらし安心の水戸市を

私は「母と子の願いを市政へ」と、二十五歳で保育士から市議になり、以来四十年、地方議員として働いてきました。

今、市立図書館や学校給食の民間委託、老人福祉センターの入浴料有料化など、子どもや高齢者をないがしろにする市政に、胸が痛みます。

大型開発は見直し、縮小させ、子育て・仕事・老後が安心の水戸市を創るため、力を合わせましょう。

「弱い立場の人こそ政治の光を」—私の政治活動の原点です。

この思いで水戸市の再生をはかります。幅広いご支援をお願いいたします。

大内くみ子

「明るい水戸市をつくる会」

日本共産党推せん



プロフィール

いつも「元気を配る人」大内くみ子さん

25歳、全国最年少の女性市議が誕生したのは一九七五年。以来、水戸市議20年、茨城県議20年。大内さんは議会のたびに発言し、願い実現に誠実にとりくみました。

学童保育の専任指導員の廃止について「子どもたちがどんな思いでいるか」と市を追及。翌日の新聞は「涙の訴え、4時間のねばり」と大きく取り上げました。と言っても、大内さんに一度でもあつた人は、そのこぼれるような笑顔を思い出すでしょう。つらいことや悲しいことがあっても、明るい声をかける大内さんは、まさに「元気を配る人」です。

利権うずまく県政にあつても、その凜とした態度、迫力ある質問で議会を圧倒しました。他党議員も認めざるをえない提案で、諸問題を次つぎと解決していくのです。ムダな公共事業をやめ、福祉や教育の充実を、と訴えつけた大内さんの力はだれもが認めるところです。

平和とくらしを守つてひとすじに—大内さんこそ市長にふきわしい女性政治家です。

- 1949年8月福島県須賀川市生れ ● 茨城大学養護教諭養成所卒業 ● 水戸市で保育士3年 ● 水戸市議5期20年、茨城県議5期20年
- 茨城革新懇話会 ● 趣味・ウォーキング(偕楽園公園など)、映画鑑賞 ● 水戸市堀町在住

水戸市政—これでいいのでしょうか



毎年値上げ、さらに4月から介護保険料の20%値上げ

- ・介護保険料 値上げ(2012年度)
- ・国保税 値上げ(2013年度)
- ・下水道料金 値上げ(2013年度)
- ・水道料金 値上げ(2014年度)

福祉カット

- ・高齢者お祝い金
77歳廃止
- ・老人福祉センター
お風呂代有料化



ムダづかい

- ・大工町再開発に40億円の税金投入。いまもビルのテナントは埋まらずガラガラ
- ・水余りなのに県の水を毎年1億6千万円購入つづけている

新市民会館に300億円

- ・泉町1丁目に新築計画。大ホール2000人、全体3700人
- ・専用駐車場は300台、大渋滞が予想されます

「ためこみ金」

(財政調整基金)

100億円

暮らしを削って4年間で4倍
増。これを活用し、暮らしを
守ります。

「明るい水戸市をつくる会」(「明るい会」)は、1997年9月に結成され、「憲法を市政に生かし、市民の暮らし・福祉を最優先にする市民が主人公の水戸市政をめざす」(会則第1項)市民団体です。目的に賛同する団体と個人で構成しています。

力を合わせて
市民の声が届く
水戸市政に

大内くみ子

1、暮らし・福祉、教育最優先の市政へ

国保税の引き下げ、介護保険料の値上げストップ、保育所増設、子ども医療費助成の所得制限撤廃、高校卒業までの拡充、学童保育の充実、30人学級の実現

2、安定した雇用、地域経済の活性化を

住宅リフォーム助成制度の創設、非正規職員の正規化、商工予算を増やし商店街支援
市立図書館や学校給食の民間委託をやめます

3、大型公共事業を生活密着型に見直し、 住みよいまちづくりをめざします

新市民会館は多くの市民が使いやすい適切な規模に縮小し、予算を大幅に削減します
生活道路や通学路の整備費の増額、霞ヶ浦導水事業の中止を求めます

4、歴史と文化、豊かな自然を生かした 水戸市をつくります

新たな合併や無秩序な開発はしません
女性の地位向上をめざします

5、東海第二原発の再稼働を許さず、 廃炉を求めます

脱原発首長会議に参加し、原発廃炉運動の先頭に立ちます

6、憲法を地方自治と暮らしに生かし、 平和と民主主義をまもります

安倍政権の「戦争する国づくり」に反対し、法律化を許しません

